

H28 年次 水産土木分野 選択科目Ⅲ－2

国内水産物の国内消費拡大と輸出拡大を図るため、拠点漁港を中心に漁港における高度衛生管理対策が進められている。特に輸出に関しては、平成 25 年 8 月に「農林水産物・食品の国別・品目別輸出戦略」が公表され、国内水産物の輸出測人に向けた取り組みが進められている。このような状況を踏まえ、以下の問いに答えよ。(1) 漁港において、輸出促進に向けて検討すべき項目を多様な観点から述べよ。(2) 上述した検討すべき項目から、あなたが最も解決すべきと考える技術的な課題を 1 つ挙げ、現時点での技術水準と解決するための技術的提案を示せ。(3) あなたの技術的提案がもたらす効果を具体的に示すとともに、想定されるリスクについて論述せよ。

1 輸出促進に向けて検討すべき項目

で醸成させている。

作業環境、設備器具等の適正な洗浄や魚介類への適

輸出に当たっては、輸出先国における衛生管理基準 (HACCP) への適合、衛生証明書の添付など、外国政府が求める要件に適切に対応する必要がある。また、輸出

このことから、輸出先国における輸出品目の選定や輸出相手国が求める形態や品質等に対応するため、漁港の流通機能の高度衛生化対策に如何にして取り組む

正な海水利用、清潔な氷の使用のため施設が必要である。整備手法としては、清浄海水導入施設の整備を行う。なお、管理レベルに応じて、紫外線による殺菌装置も導入する。

出に取り組むためには、マーケティング・ブランディング対策や売り場が望む通年・安定供給が難しいなどの問題がある。

このことから、輸出促進に向けては、①輸出品目の選定や輸出相手国が求める形態や品質等に対応するため、漁港の品質・衛生管理対策を推進、②迅速な衛生証明書発給体制の構築、③個々の漁協・事業者が個別取り組んでいるマーケティング・ブランディングを国

イ) 課題解決のための技術的提案

30 流通機能の高度衛生化対策として、第一義的には人の健康を損なう恐れのある危害を除去あるいはコントロールすることである。これは、「作業環境の衛生保持、水産物の鮮度保持」を行うことによって実現できる。このため、①漁港水域の環境保全、②水・氷供給、排水処理、廃棄物処理システムの整備、③漁港全体の合理的なゾーニング、④陸揚げ・出荷作業形態の適正化、などについて、効果的に機能するように整備計画を策

(3)陸揚げ・出荷作業形態の適正化

防風防雨防塵、鳥獣等侵入防止施設整備が必要である。整備手法としては、屋根付き岸壁の整備、HACCP 対応型の荷捌き施設がある。

2 技術的課題と解決に向けた技術的提案

(1)漁港水域の環境保全施設

ア) 技術的課題

40 泊地内に、ゴミ・汚水の流入防止のため、陸揚げ岸壁や荷捌き施設等からの排水管理を行う施設が必要である。整備手法としては、①排水溝のスクリーン処理施設、②漁港浄化施設整備による 2 次処理、などがある。なお、必要に応じて、海水交換施設や汚泥浚渫な

3 技術的提案がもたらすリスク

提案した施設に於いては、イニシャルコストの外、ランニングコスト、維持管理コストなど多くの費用を必要とする。このため、重点国・地域への進出に必要な情報の収集や提供や売込手法を勘案した上で最小限の施設整備に留意すべきである。

日本が輸出している水産物は、その取扱いの丁寧さなどにより世界から高い評価を受けている。また、海外での日本食の人気の高まっていることから、需要は右肩上がり

また、維持管理に於いては、施設の劣化や損傷が発見されてから維持・補修する「事後保全」から、早い段階で劣化補修の状況を把握した補修更新を行う「予防保全」によるストックマネジメントが必要がある。

一方で、食の安全安心に対する関心の高まりは、衛生管理に待ったなしで取り組むべき認識を、世界共通

(2)水、氷供給システム

－以上－